

第5・6学年 国語科学習指導案

児童 5年生 8名 6年生 7名

授業者 叶内 博行

<第5学年>

1 単元名 物語の全体像をとらえ、考えたことを伝え合おう

中心学習材名 たずねびと（光村図書 5年）

2 単元について

（1）児童の実態

これまで子どもたちは、物語を読む学習において、登場人物の会話や行動などに着目し、登場人物の心情を、想像を広げながら読む学習を行ってきた。「なまえつけてよ」の学習では、会話や行動を抜き出し、その時の心情を想像してきた。また、出来事を通して、二人の関わりがどのように変化してきたかを題名と結び付けながら考えた。そして、二人の人物像をもとにして、二人がこの先どう関わっていくかを想像することができた。これらの学習を通して、子どもたちは、登場人物の会話や行動などに着目して、登場人物の心情を想像したり人物像を捉えたりする力がついてきている。また、登場人物の気持ちの変化や関わりについても捉えられるようになり、自分の考えを友だちと共有して自分の考えを深めたり広げたりする力もついてきている。

しかし、行動や情景描写などから心情を想像する力や物語全体をとらえ、心情の変化を捉えるまでには至っていない。

この単元で登場人物の心情の変化を学習することで物語の全体像を捉えられるようにしたいと考える。

（2）学習材について

本単元「物語の全体像をとらえ、考えたことを伝え合おう」では、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を捉えたりして、自分の考えを広げることが主たるねらいとしている。

中心学習材「たずねびと」は、広島出身の作者の思いがさまざまな人物や主人公「綾」が会うものの中に生きていて、それぞれが「綾」に、そして読者に語りかけてくる。「綾」は、それらさまざまなものとの出会いを

<第6学年>

1 単元名 作品の世界をとらえ、自分の考えを書こう

中心学習材名 やまなし（光村図書 6年）

【資料】イーハトーヴの夢

2 単元について

（1）児童の実態

これまで子どもたちは、物語を読む学習において、文章の内容を的確に押さえ、登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉え、関心をもった叙述について少しずつ自分の考えをもつことはできるようになってきている。

6年生になってからは、「帰り道」の学習を通して、視点のちがいに着目し、登場人物の心情や人物像を捉えた。視点が変わることで、同じ出来事でもそれぞれの登場人物の見え方が違ってくると感じ、自分と比べながら読むことで、人物像を深く捉えられることを学んだ。

このように、登場人物と自分を比べて人物像を深く読む子どもたちがいる一方で、自分の考えと考えの根拠となる叙述を結び付けて考えることに難しさを感じている子どもがいるなど個人差が見られる。

この単元で表現や構成から作品にえがかれた世界を根拠となる叙述と結び付けてとらえる学習をすることで、叙述をもとに豊かに想像できるようにしたいと考える。

（2）学習材について

本単元「作品の世界をとらえ、自分の考えを書こう」では、作者の独特な表現を味わい、表現や構成から作品の世界を捉えて自分なりに考えを書く」ことを主たるねらいとしている。

「やまなし」は、賢治の深い思想性をもつ作品であると言われている。この作品は額縁構造によって2つのタイプの文章から成り立つ。1つは、「私」による一人称視点で書かれた外枠（最初と最後）、もう一つは、三人称の客観的な視点によって書かれた2枚の幻灯で

通して変わっていく。また、「綾」の心情は、彼女を取り巻くさまざまなものに投影され、繊細な描写として表現されている「綾」に自分を重ねて読み進めることで、多くのことに気づき、考えを深め、自分の変化として捉えることができる。また、その考えを友だちと伝え合う中で、自分の考えを広げることができる。

(3) 指導にあたって

指導にあたっては、次の三点に留意していく。

一点目は、本単元で育成を目指す資質・能力を明確にした単元構想である。本単元で育てたい資質・能力は、「物語の全体像から考えたことを伝え合う」である。構造と内容の把握の段階では、「学習」のページを活用し、「たずねびと」を読んで感じたことや考えたことを伝え合うというゴールを確認する。「感じたことや考えたこと」を伝えるには、登場人物の心情の変化を捉える必要がある。そのために、行動や情景、心情を表す言葉に着目して読んでいくようにする。また、主体的に学習に取り組めるように、それぞれが疑問に思うことを出し合い、自分たちが解決したいことを中心に学習課題を設定する。精査・解釈の段階では、物語の全体像を捉えるために、最後の場面を作品全体と関わらせながら読み深めるようにする。一つ一つの表現に着目して読むことで、登場人物の心情の変化を手掛かりに全体像を捉えるようにしたい。このことが、考えの形成の段階の「たずねびと」を読んで変化した自分の気持ちを書くことにつながっていくと考える。

二点目は、考えを深める工夫である。「ふかめる」段階で、学習課題に対する自分の捉えを書き表した後、互いの読みに対する考え方を交流する活動を取り入れる。その際には、ただ、自分の考えを相手に伝えるだけで終わることがないように、相手の考えを聞いて疑問に思ったところを質問したり、考えの根拠を質問したりするようにする。質問や疑問がなくても、必ず相手の考えに対する感想を伝えるようにする。活動を通して、友だちの発言から自分の考えをより深めたり、広げたりすることができると思う。

三点目は、主体性につながる自己評価の観点をもたせることである。単元末にこの学習でどんな力をつけることができたかを振り返る場を設定する。本単元の

ある。また、「かへの親子」の会話を軸にさまざまな小動物や植物が登場し、色鮮やかな情景が描かれている。しかし、単なる「かへの親子の物語」ではなく、「生と死」「光と影」「奪うものと与えるもの」などが対比された、人間世界や人間を取り巻く大きな自然・宇宙として捉えられている。

伝記「イーハトーヴの夢」は、賢治の世界に深くかかわる筆者が、小学生向けに書き下ろした評伝である。賢治がどのような社会情勢の中で生まれ育ったのか、幼少期の暮らしぶり、当時の状況が賢治の生き方に与えた影響、厳しい自然環境に苦しむ農民の姿に対してどのような願いや考えをもち行動したか、賢治の考え方や作品について簡潔に書かれている。伝記を読み、賢治像をおぼろげながらもつかむことで、賢治が作品を通して表現したかったことをつかむことができると考える。

(3) 指導にあたって

指導にあたっては、次の三点に留意していく。

一点目は、本単元で育成を目指す資質・能力を明確にした単元構想である。本単元で育てたい資質・能力は、「作品全体からその世界観を捉える。」である。構造と内容の把握の段階では、「学習」のページを活用し、本中心学習材「やまなし」と資料「イーハトーヴの夢」を重ねて読み、作者が作品にこめた思いを自分の考えとして書くというゴールを確認する。作者が作品にこめた思いについて考えるには、作者の独特な表現を味わいながら、その表現と構成に着目して読み進める必要がある。はじめに「イーハトーヴの夢」を読むことは、作者宮沢賢治の生き方や考え方に作者の考え方や生き方を知るための大きな一助となる。また、主体的に学習に取り組めるように、それぞれが疑問に思うことを出し合い、自分たちが解決したいことを中心に学習課題を設定する。精査・解釈の段階では、「五月」と「十二月」の幻灯を作者の独特な表現や色を表す言葉等に着目して読み、情景を想像する。考えの形成の段階では、2枚の幻灯の比較から作品に込めた作者の思いを、根拠を明らかにしながら書くようにする。その際、「イーハトーヴの夢」に書かれている宮沢賢治の考えや理想も結び付けて考える。共有の段階では、自分の考えをグループで読み合い、感想を交流する。考えを友だちと交流することで、自分の考えを広げたり、作品の世界をより深く味わったりすることができると思う。

二点目は、考えを深める工夫である。一単位時間の中で、学習課題に対する自分の捉えを書き表した後、互いの読みに対する考え方を交流する活動を取り入れる。そ




資質・能力の他に、研究主題に関わる主体的な学び方、発展読書についても振り返る。単元末の振り返り、すなわち目指す姿が明確になると、そこに向かってこの時間は何を身に付けるかが具体的になり、振り返りの観点も明確になる。終末の振り返りでは、振り返りの観点を示すことで、その日の自分の学習を振り返る。その振り返りを続けて行うことを通して、自己肯定感を高めたり、次時への意欲につなげたりしていきたい。また、互いの読みに対する考えを交流することによって、自分の考えが広まったり深まったりするというよさについても実感させたい。

の際には、ただ、自分の考えを相手に伝えるだけで終わることがないように、相手の考えを聞いて疑問に思ったところを質問したり、考えの根拠を質問したりするようにする。質問や疑問がなくても、必ず相手の考えに感想を話すようにする。活動を通して、友だちの発言から自分の考えをより深めたり、広げたりすることができる。その交流を受けて、直接指導の場面では、子どもたちから出された考えがより深いものになるように発問を計画し、課題に迫っていきたい。


三点目は、主体性につながる自己評価の観点をもたせることである。単元末にこの学習でどんな力をつけることができたかを振り返る場を設定する。本単元の資質・能力の他に、研究主題に関わる主体的な学び方、発展読書についても振り返る。単元末の振り返り、すなわち目指す姿が明確になると、そこに向かってこの時間は何を身に付けるかが具体的になり、振り返りの観点も明確になる。終末の振り返りでは、振り返りの観点を示すことで、その日の自分の学習を振り返る。その振り返りを続けて行うことを通して、自己肯定感を高めたり、次時への意欲につなげたりしていきたい。また、互いの読みに対する考えを交流することによって、自分の考えが広まったり深まったりするというよさについても実感させたい。

3 育てたい資質・能力


◎登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること

 **登場人物どうしの関わりを読む**
なまえつけてよ
 心情  人物像

◎人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を捉えたりして、自分の考えを広げること



 **物語の全体像から考えたことを伝え合う**
「たずねびと」

◎伝記を読んで理解したことを基に自分の生き方を考えること


 **伝記を読み、生き方を考える**
やなせたかし
—アンパンマンの勇気—

3 育てたい資質・能力


◎登場人物の相互関係や心情などについて、視点のちがいに着目し、描写を基に捉えること

 **人物像をとらえる**
帰り道
 視点

◎作者の独特な表現を味わい、表現や構成から作品の世界を捉えること

 **作品の世界をとらえる**
やまなし
【資料】イーハトーヴの夢

◎人物どうしの関わりや、人物の生き方が表れている表現に着目し、人物の生き方について考えること

 **物語の読みを広げる**
海の命

4 言語活動

物語に対する自分の思いや考えを伝え合う。

単元の指導計画

(1) 単元の目標

〔知識・及び技能〕
① 語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。 ((1) オ)
〔思考力・判断力・表現力等〕
① 人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。 ((1) エ)
② 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。 ((1) カ)
「学びに向かう力、人間性等」
言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

(2) 評価規準

知識・及び技能
① 語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使おうとしている。 ((1) オ)
思考力・判断力・表現力
① 「読むこと」において、人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。 ((1) エ)
② 「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げようとしている。 ((1) カ)
主体的に学習に取り組む態度
進んで人物像や物語の全体像を具体的に想像し、文章を読んでまとめた意見や感想を共有しながら、学習の見通しをもって、物語に対する思いや考えを伝え合っている。

4 言語活動

物語を資料と重ねて読み、作品世界について考えたことを書く。

(1) 単元の目標

〔知識・及び技能〕
① 比喻や反復などの表現の工夫に気づくことができる。 ((1) ク)
〔思考力・判断力・表現力等〕
① 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。 ((1) オ)
② 人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。 ((1) エ)
「学びに向かう力、人間性等」
言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

(2) 評価規準

知識・技能
① 比喻や反復などの表現の工夫に気づいている。 ((1) ク)
思考力・判断力・表現力
① 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。 ((1) オ)
主体的に学習に取り組む態度
積極的に物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしながら、文章を読んで理解したことに基づいて、作品の世界について考えたことを書いている。

(3) 単元指導計画・評価規準

5年「たずねびと」(全8時間)

6年「やまなし」(全10時間)

○学習活動 学習課題 着目する言葉	評価規準及び 評価方法	時	学習 過程	時	○学習活動 学習課題 着目する言葉	評価規準及び 評価方法
<p>①「単元扉」を見て、挿絵や題名からどのような物語か想像し、発表し合う。</p> <p>②朗読CDを聞き、初発の感想を書き、交流する。</p> <p>③物語の全体像をとらえ、考えたことを伝え合おうの学習課題を設定し、「学習」をもとに学習の進め方を確認する。</p>	<p>[知識・理解①] 発言・記述 登場人物の心情を捉えるときに、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識しているか確認する。</p> <p>[思考・判断・表現①] 発言・記述 心情の変化などを捉えて人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしているか確認する。</p>	1	1	1	<p>①「単元扉」を見て、学習への意欲を高め、作品について想像したことを話し合う。</p> <p>②朗読CDを聞き、初発の感想を書き、交流する。</p>	
<p>①疑問に思ったこと、みんなと考えたいことを考える。</p> <p>②疑問に思ったこと、考えたいことを出し合い、学習計画を立てる。</p>		2	2	2	<p>①「イーハトーヴの夢」を読み、宮沢賢治の生き方や考え方について話し合う。</p>	
<p>①それぞれの場面で、「綾」の前に現れたものや人物を整理する。</p> <p>②広島に行くまでの「綾」の気持ちについて想像してまとめる。</p> <p>③広島についてからの「綾」の気持ちを捉え、物語全体を通した心情の変化をまとめる。</p>		3	3	3	<p>①「作品の世界をとらえ、自分の考えを書こう」の学習課題を設定し、P124「学習」をもとに学習の進め方を確認する。</p>	
<p>①最後の場面を作品全体と関わらせながら読み深め、物語の全体像を捉える。</p>		4	4	4	<p>①「五月」「十二月」で描かれている風景を、簡単な絵や図に表す。</p>	
<p>最後の場面について、一つ一つの表現に注意して読み深めよう。</p> <p>①「お兄ちゃんもせかさなかつた。」のはなぜだろうか。</p> <p>②「きれいな川」や「ただの名前」は、どんなもの変わったのだろうか。</p> <p>③「綾」がたずねた場所や出会った人は、それぞれ、「綾」に何を伝える役わりを果たしているだろうか。</p>		5	5	5	<p>①心を引かれる表現を味わい、「五月」の情景を想像する。</p> <p>心をひかれる言葉や表現を味わい、「五月」の谷川の情景を想像しよう。</p> <p>〈十二月〉 【オノマトペ】 かぶかぶ つぶつぶ つうと ゆらゆら ぎらぎら 【比喩表現】 水銀のように 日光の黄金 夢のように 輪のように まるでぎらぎらする鉄砲だま のようなもの コンパスのように</p>	<p>[思考・判断・表現②] 発言・記述 物語世界の全体像を具体的に想像するとともに、宮沢賢治の生き方や考え方、作品の特徴をとらえているか確認する。</p>

<p>静かに流れる川，夕日を受けて赤く光る水。 わたしはらんかんにもたれた。 消えてしまった町，名前ではない人々 名まえでさえない人々数ではない人々 数でさえない人々 わたしたちがわすれないでいたらここでどんなにおそろしいことがあったかということ ずっとわすれないでいたら，世界中のだれも，二度と同じような目にあわないですむのかもしれない。</p>	<p>〔主体的に学習に取り組む態度〕<u>発言・記述</u> 粘り強く物語の全体像を具体的に想像し，学習の見通しをもって，物語に対する思いや考えを伝えようとしているか確認する。</p>	<p>6 精 査 ・ 解 積</p>	<p>①心を引かれる表現を味わい，「十二月」の情景を想像する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>心をひかれる言葉や表現を味わい，「十二月」の谷川の情景を想像しよう。</p> </div> <p><十二月> 【オノマトペ】 トブン ずうっと きらきらっと ぼかぼか サラサラ もかもか 【比喩表現】 ラムネのびんの月光 青いほのおを上げ 波が青白い火を燃やしたり消したりしているよう 遠眼鏡のような両方の目をあらんかぎりのばしておどるようにして 月光のにじ 金剛石の粉をはいているよう</p>	<p>〔知識・理解①〕<u>発言・記述</u> 語のリズムや表現のもつ美しさ比喩などの表現上の特色に気付いているか確認する。</p> <p>〔主体的に学習に取り組む態度〕<u>発言・記述</u> 表現や構成等に注目して，作品を読み返しながら作品に込められた思いを明らかにしているかを確認している。</p>
<p>①「自分の気持ちや考えの変化」に焦点を当てながら，感じたことや考えたことをノートにまとめる。</p>	<p>〔思考・判断・表現①〕<u>発言・記述</u> 物語を読んで，変化した自分の気持ちや考えなどについて，自分の考えをまとめているか確認する。</p>	<p>7 考 え の 形 成 本 時</p>	<p>①「五月」と「十二月」の場面を比べ，感じたことや考えたことをまとめる。</p>	
<p>①前時でまとめたことをもとに，物語を読んで感じたことや考えたことを伝え合う。 ②学習を振り返る。</p>		<p>8 共 有</p>	<p>①「五月」と「十二月」を比べて感じたことや考えたことをまとめよう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「五月」 「十二月」 【かへの兄弟や様子】 あわをはく よほど大きく クラムボン あわ比べ 【水や光の様子】 青白い水の底 白いやわらかな丸石 日光の黄金 ラムネのびんの月光 【上からきたもの】 かわせみ やまなし ぎらぎら 黒い丸い大きなもの 鉄砲玉のよう 黄金のぶちが光り</p> </div>	
	<p>7 精 査 ・ 解 積</p>			

<p>8 (精 査 ・ 解 釈) 本 時</p>	<p>①なぜ「やまなし」という題名にしたか考える。</p> <p>なぜ、賢治は「やまなし」を題名にしたのだろうか。 クラムボンは 死んだよ。 クラムボンは 殺されたよ。 コンパスのように黒くどがっているもの 居すくまってしまいました。 「魚かい。魚はこわい所へいった。」 トブン ああ、いいにおいだな。 よく熟している。いいにおいだろう。 ひとりでおいしいお酒ができるから</p>	<p>[思考・判断・表現①] 発言・記述 文章を読んで理解したことに基づいて、作者が作品に込めた思いについて、考えたことをまとめているか確認する。</p>
<p>9 形 成 (考 え の</p>	<p>①宮沢賢治が「やまなし」に込めた思いについて考えてまとめる。</p>	
<p>10. (共 有)</p>	<p>①書いた文章をグループで読み合い、感想を交流する。 ②学習を振り返る。</p>	

4 本時の指導計画

(1) 目標

○作品を読んで理解したことや自分の変化について感想や考えをまとめることができる。

(2) 着目させたい言葉

本時のねらいは、作品を読んで理解したことや自分の変化について、感想や考えをまとめることができることである。

本単元の資質・能力「物語の全体像から考えたことを伝え合う。」を育てるために、次の言葉に着目させる。

- ・わたしは頭がくらくらしてきた。
- ・何もかも信じられないことばかりだった
- ・うちのめされるような気持ちのまま
- ・気が遠くなりそう
- ・「アヤちゃん、よかったねえ。もう一人のアヤちゃんがあなたに会いに来てくれたよ。」
- ・「この楠木アヤちゃんの夢やら希望やらが、あなたの夢や希望にもなって、かなうとええねえ。元気で長う生きて、幸せにおくらさないよ。」
- ・「どうか、この子のことを—アヤちゃんのことを、ずっとわすれなくてね。」
- ・に流れる川、夕日を受けて赤く光る水。
- ・消えてしまった町
- ・名前でしかない人々
- ・名まえでさえない人々
- ・数でしかない人々
- ・数でさえない人々
- ・わたしたちがわすれないでいたら
- ・ここでどんなにおそろしいことがあったかということ
- ・ずっとわすれないでいたら、世界中のだけれも、二度と同じような目にあわないですむのかもしれない。

4 本時の指導計画

(1) 目標

○「イーハトーヴの夢」と「五月」、「十二月」の場面をもとに、なぜ賢治が「やまなし」という題名にしたのかを考え、交流し合うことを通して、作者が作品に込めた思いを捉えることができる。

(2) 着目させたい言葉

本時のねらいは、「イーハトーヴの夢」と「五月」、「十二月」の場面をもとに、賢治が「やまなし」を題名にした理由を考えてまとめ、交流し合うことを通して、作品の世界を捉えることができることである。

本単元の資質・能力「作品全体から、その世界観を捉える。」を育てるために、次の言葉に着目させる。

- ・クラムボンは 死んだよ。クラムボンは殺されたよ。
- ・コンパスのように黒くどがっているもの
- ・居すくまってしまいました。
- ・「魚かい。魚はこわい所へいった。」 トブン
- ・ああ、いいにおいだな。よく熟している。
- ・いいにおいだろう。
- ・ひとりでおいしいお酒ができるから。
- 【イーハトーヴの夢】
- ・いねの心が分かる人間になれ。
- ・なんとかして農作物の被害を少なくしたいですし、人々が安心して田畑を耕せるようにできないものか。
- ・力を合わせるには、たがいにやさしい心が通い合っていなければいけない。
- ・人間がみんな人間らしい生き方ができる社会だ。それだけでなく、人間も植物も、たがいに心が通い合うような世界。

第5学年 7/8 (本時)					第6学年 8/10 (本時)		
学習活動 ■主発問 □発問 ・指示	○期待する子どもの姿 ・留意点 【評価】	段階	計 画	段階	学習活動 ■主発問 □発問 ・指示	○期待する子どもの姿 ・留意点 【評価】	
1 前時の学習を振り返る	・児童の疑問や前時までの学習から出された課題を確認する。	つかむ	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■	つかむ	1 前時の学習を振り返る	・前時までに読み取った2つの幻灯を掲示する。 ・前時までに学習した内容を、出来るだけ手短かに確認する。	
2 本時の学習課題を把握する					2 本時の学習課題を把握する		
「たずねびと」を読んで変化した自分の気持ちや考えについてまとめよう。				賢治は、なぜ「やまなし」を題名にしたのだろうか。			
3 課題解決の見通しを立てる。	・本時の学習の流れ(①初発の感想を振り返る。②学習を通しての自分の気持ちや考えをまとめる。)について確認する。 ・自分の初発の感想と比べられるように、準備しておく。 ・伝え合ったことを全体で共有し、自分の気持ち	かんがえる	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■	かんがえる	3 課題解決の見通しをもつ。	・本時の学習の流れを確認するとともに、これまでに学習した資料「イーハトーヴの夢」についてもふれ、賢治の生き方や考え方と結びつけて考えるようにする。	
□最初に読んだ時の感想を振り返りましょう。					4 自力解決する □なぜ、賢治は題名を「やまなし」にしたのだろうか。		

	<p>ちの変化や考えをまとめる着眼点を設定する。</p> <p>【着眼点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「たずねびと」という題名 ・「綾」の心情の変化 ・物語の全体像 ・戦争 <p>○初発の感想では、疑問ばかり書いていた。</p> <p>○登場人物の「綾」のことしか書いていなかった。</p> <p>○戦争のことを書いてあるけれど、どのくらいひどいことなのか書いていなかった。</p> <p>○「綾」の気持ちの変化については書いていなかった。</p>	かんがえる	かんがえる	<p>・「やまなし」と「イーハトーブの夢」を関連させた意見が出てこない時は、『「やまなし」は「イーハトーブの夢」とどのようにつながるかな。』という問いかけをする。</p> <p>○題名にするほどだから、やまなしが大切だと言いたいのだと思う。</p> <p>○寒い冬に自分の命という恵みをかのにの家族に与えたやまなしがいいと伝えたいのだと思う。</p> <p>○「十二月」の「やまなし」は、かのにの親子にとって、安心するものだったからだと思う。</p> <p>○「かわせみ」のように怖さを与えるものより「やまなし」のように安心感や恵みを与えられる方がいいと思ったから。</p> <p>○「やまなし」という題名にしたのは「やまなし」が周りに安心感を与えたからだと思う。</p>
<p>4 深め合う</p>	<p>手立て2 交流のポイント</p> <p>友だちの考えを聞き、相手に返す時のポイントを提示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 考えの根拠を問う。 ・ 自分の考えとの相違 ・ 学んだこと 	かんがえる	<p>5 深め合う</p> <p>■それぞれが考えた題名の意味について考えたことを、友達と比べましょう。</p>	<p>5 深め合う</p> <p>■それぞれが考えた題名の意味について考えたことを、友達と比べましょう。</p>
<p>5 自力解決する</p> <p>■「たずねびと」を読んで変化了自己的な気持ちや考えを書きましょう。</p> <p>・友だちとの交流から学んだことや共感できたことなどを自分の考えに付けたす。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 共有した観点を参考に文中の言葉を引用したり、根拠となる叙述を使ってまとめたりするようにする。 ・ 『綾』と自分を重ねて考えたこと ・ 「自分の経験と重ねて考えたこと」 ・ 「これからの自分の生き方」といった視点でまとめるようにする。 <p>○原爆で亡くなった方、一人ひとりを忘れないでほしいという作者の思いが伝わってきました。昔、戦争があったことは知っていたけれど、モニターに映し出された写真やおばあさんの「わすれんでおってね。」という言葉などから前よりも戦争について考えるようになりました。</p> <p>○学習するまでは、興味をもったから行って見た</p>	ふかめる	ふかめる	<p>手立て2 交流のポイント</p> <p>自分の考えと、友達の考えとを比べて、自分の考えを広げたり深めたりするような指示を出す。</p> <p>・「五月」と「十二月」の2つを描いた理由について触れ、考えをより深めるようにする。</p> <p>○「五月」と「十二月」を比べると「五月」に出てくるかわせみはかのにの兄弟に自然の怖さや恐ろしさを与えたけれど、「十二月」に出てくるやまなしはかのにの兄弟や周りに自然の恵みや安心感を与えたから、賢治は自然の恵みや安心感のある世界を大事にしたかったのだと思う。</p> <p>○恐ろしい世界にやさしさや平和を運んできた世界を比べることによって平和な世界が自分の理想だと伝えなかったのだと</p>

